〈書　　評〉

ゆうゆう子育て
— 0歳から3歳までの遊びの世界 —
ゆうゆう子育て研究会 編著
26cm　183頁
㈳全国母子健康センター連合会 発行

最近，育てる者の気持ちになった育児のアドバイスの記事が，雑誌や書物の中で多く散見されるようになっているのは誠に嬉しい傾向であるが，本書もまさしくその特徴を備えた，育てる者にとっての福音となる書物である．イラストをふんだんに使って，分かりやすい親しみやすいものとする，育児の本の基本が充分おさえられているのみならず，中に書かれたいろいろな遊び方について，たて軸を育児のさまざまな場面とし，横軸を年月齢にとって，一覧表にしてあることで，必要な項目をすぐに探し出すことができて大変便利である．

本書には育児のさまざまな場面に対応した遊び方が紹介されている．しかも，実際の場面や育児で困る具体的な内容等について熟知した上でないとなかなか気がつかないようなことがらにも触れてあって嬉しい．お母さんが疲れているとき，子供が病気の時などを始めとして，外出・旅行の車内など，あらゆる場面に対応してあって実用的である．また，子どもの本性を知って，相手の出方を見ながら遊ぶのがよいという視点も貴重である．子どもはくり返しを好むものであるからうんざりしてばかりいるものではないとしていろいろな知恵を示してくれたり，逆に，子どもの受け入れ態勢をみながら，間をもたせてタイミングよくかかわることの重要性など，初めての育児では，分かりにくいことまで親切に説明してある．

本書は分かり易く親しみ易いだけでなく，かなりしっかりした学術的根拠や理論に裏づけられている．運動発達を助ける体操的要素にしても，内外の成書がベースになっていることが伺えるし，またそれが日本の実情に合わせてアレンジされているように思える．発達心理的な分野にしても，おしゃぶりの楽しめるおもちゃ，かがみ遊び，まねっこ，ごっこ遊びなど，その奥にはかなり深い理論構築があると聞く内容である．

囲みのワンポイントアドバイスには，育児・遊びに役に立つ内容が手短かにまとめられているが，事故防止など，機会をみて保護者に注意を促したい内容などもとりあげられているし，また，最近問題になっているいじめに因んで含みのある見方でコメントしてあって興味深い．また遊ばせ方の苦手なお母さんは，発想を転換して子どもがいろいろな遊びを考え出す中から学べという考え方は大変意義がある．養育者と子どもとの関わりは，常に一方通行ではありえないという根源的な真実をおさえているからである．

なお，「ゆうゆう子育て研究会」の衛藤隆（代表），井原成男は国立公衆衛生院母子保健学部のスタッフである．

加藤則子（母子保健学部）